

# 大峰（おおみね）

育成者：滝ヶ崎一郎（茨城県新治郡 来歴：「盆グリ」の自然交雑実生  
千代田町大峰）

## 特 性

茨城県新治郡千代田町大峰の育成者が戦後間もなく「盆グリ」栽植圃場で発見した早～中生品種。「盆グリ」の偶発実生と考えられる。種苗法による品種登録は行っていない。

### ■栽培特性

樹姿は直立型と開張型の中間程度で、樹の大きさは中位である。樹勢は若木時代の伸長は旺盛であるが、樹齢が進むにつれて緩やかになり「丹沢」程度の中位となる。枝の発生密度はやや密である。雌花の着生は非常に多く、生理落下が少なく台風に対しても強い。そのため、結果性は極めて良好で毎年安定しており、年によっては着果過多になりやすい。きゅう果の大きさは小～中、摘みは若木時代にやや悪いが、樹齢が進むにつれて安定する。きゅう肉の厚さは中、刺毛の密度は密で硬く、長さは「銀寄」よりも細く長い。開裂は縦にさける。

収穫時期は「丹沢」の後に続く9月上～中旬で「伊吹」とほぼ同じ。比較的収益性の高い早生品種ということで、近年注目されているが、着果過多による果実の小粒化が問題となっている。剪定時の結果母枝制限または単植による受粉制御など、着果を制限することにより「丹沢」「筑波」と同程度の大きさの果実を生産することが可能である。

### ■果実特性

果形は帯円三角形、座の大きさは中、接線は小波の中に角波があり、毛茸は少ない。大きさは一般栽培で小～中（20g前後）、低樹高などで結果母枝を制限して栽培すると中～大（25g前後）となる。果色は褐色、縦線は明瞭、粒摘みは良好である。裂果は少なく、年により小さな果頂裂果がわずかに認められる。双子果の発生は少なく2%以下である。果肉は黄色でやや粉質、甘みはやや多く、比重は「国見」より高く「丹沢」より低い。結果性は良好で収量は「丹沢」より多く、「国見」より若干少ない。加工適性は双子果も少なく、渋皮の果肉への侵入も浅く少ないので、ムキグリ歩留まりが高い。シラップ漬け加工の場合、果肉のくずれも少なく、果肉色も良好である。

### ■病虫害抵抗性

きゅう果のモノゴマダラノメイガ、ネスジキノカワガなどの虫害被害は少なく、クリタマバチの着生は弱小枝に見られる程度で抵抗性はやや強い。実たんそ病などによる果実の腐敗は少なく「筑波」と同程度、収穫時期が同じ「伊吹」より病虫害抵抗性は明らかに強い。接ぎ木不親和などによる樹の枯死はほとんど認められない。

### ■地域適応性

茨城県とその近県では既に栽培されており、「丹沢」「筑波」などクリ主要品種が栽培可能な地域であれば、「大峰」の栽培も可能であると思われる。

（梅谷 隆）